



小郡三井医師会

会長 蒲池 壽 殿

平成 23 年度「福岡県救急の日のつどい 2011」についてのお願い

拝啓 暑い日が続いておりますが、貴職におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、福岡県救急の日及び救急医療週間実施要綱に基づいて行われています「福岡県救急の日のつどい 2011」は、今年度は当医師会が担当することになりました。

平成 23 年 9 月 4 日（日）に大川市文化センター大ホールにてパンフレットの要領で行うことにいたしました。

そこでポスター、チラシを送付させていただきます。会員の皆様などへご周知いただきますようお願いいたします。

暑い折、どうぞご自愛ください。

敬具

平成 23 年 7 月 20 日

大川三瀬医師会会長 松本英則

小郡三井医師会より

救急医療担当理事 島田昇二郎
会長 蒲池 壽

“一人でも多くの命を助けよう”

2011 福岡県

救急の日 つどい

入場無料

平成23年

日時

9月4日(日) 13:30～16:30[開場 13:00]

場所

大川市文化センター

大川市大字酒見 221-11

TEL 0944-88-0015

講演

『福島原発事故の現状と課題
被ばく医療と放射線健康リスク』

講師 山下 俊一

(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科長・

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 附属原爆後障害医療研究施設 社会医学部門 放射線災害医療研究分野 教授)

実演

『心肺蘇生法・AED使用法』

出演 久留米広域消防本部 三潴消防署員

講演

『東日本大震災に対する救急・災害医療活動
～DMAT、ドクターヘリ、JMAT活動報告～』

講師 坂本 照夫

(久留米大学病院 副院長・久留米大学医学部救急医学講座 主任教授・

久留米大学病院高度救命救急センター センター長)

主 催 福岡県・福岡県医師会・大川三潴医師会

後 援 大川市・大木町・久留米市

お問合せ

社団法人 大川三潴医師会

〒831-0033 福岡県大川市幡保299

TEL 0944-87-2611 FAX 0944-87-1153

プログラム

第1部

13:00 開場
13:30 ~ 13:45 セレモニー
13:45 ~ 14:00 救急医療関係功労者知事表彰
14:00 ~ 15:00 講演 『福島原発事故の現状と課題 被ばく医療と放射線健康リスク』
講師 山下 俊一(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 放射線医療科学専攻 教授)

第2部

15:10 ~ 15:50 実演 『心肺蘇生法・AED使用法』
出演 久留米広域消防本部 三潴消防署員
15:50 ~ 16:30 講演 『東日本大震災に対する救急・災害医療活動
~DMAT、ドクターヘリ、JMAT活動報告~』
講師 坂本 照夫(久留米大学病院 副院長・久留米大学医学部救急医学講座 主任教授・
久留米大学病院高度救命救急センター センター長)



やました しゅんいち
山下 俊一

1952年(昭和27年)6月27日生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科長・
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 附属原爆後障害
医療研究施設 社会医学部門 放射線災害医療研究分野
教授

福島原発事故の現状と課題 被ばく医療と放射線健康リスク

世界の放射線安全防護基準は広島・長崎の原爆被爆者の長年にわたる健康影響調査が基本となっています。本年は史上最悪のチェルノブイリ原発事故からちょうど25年。そして3月11日の未曾有の東日本大震災に引き続き惹起された福島における原発事故は、国内緊急被ばく医療体制のあり方と同時に事故収束に向けた長期にわたる被ばく医療のあり方が問われています。放射線被ばくには外部被ばくと内部被ばく、そして汚染などがあります。今回の福島原発事故による大気中へ放出された放射性ヨウ素の総量はチェルノブイリ事故の5から10分の1と推定されています。今なお進行中の福島原発事故の現状を顧み、チェルノブイリの経験を生かし放射線被ばくによる健康影響を正しく理解する事は、正しく怖がると同時に、今後の復興に向けた新たな挑戦となります。

放射線の人体影響について、安全防護の考え方と健康リスクの両面から福島原発事故を考え、医療者として社会問題にどのように対峙しているかの一端をご紹介します。

<学 歴>

1978年(昭和53年) 3月 長崎大学医学部卒業
1989年(平成 元年) 3月 医学博士取得

<職 歴>

1978年(昭和53年) 6月 長崎大学医学部第一内科研修医(1980年3月まで)
1984年(昭和59年) 7月 UCLA Cedars-Sinai Medical Center内分泌研究員
(1987年3月まで)
1985年(昭和60年) 9月 UCLA非常勤講師(1988年8月まで)
1987年(昭和62年) 4月 長崎大学医学部第一内科助手(1988年6月まで)
1989年(平成 元年) 7月 長崎県立多良見成人病センター内科医長(1990年8月まで)
1990年(平成 2 年) 9月 長崎大学医学部第一内科助手
1990年(平成 2 年)10月 長崎大学医学部教授
2002年(平成14年) 4月 現在 長崎大学病院
永井隆記念国際ヒパクシャ医療センター・センター長
2003年(平成15年) 4月 現在 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・教授
2004年(平成16年)12月 WHOジュネーブ本部(世界保健機関)
放射線プログラム専門科学官 長崎大学2年間休職。
2006年(平成18年)12月 長崎大学復職
2008年(平成20年) 4月 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科附属
原爆後障害医療研究施設・施設長(2010年3月まで)
2009年(平成21年) 4月 現在 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科長
2011年(平成23年) 3月 現在 福島県放射線健康リスク管理アドバイザー
2011年(平成23年) 3月 福島県立医科大学 理事長付特命教授

<専門分野>

内分泌・代謝学、分子生物学、国際放射線保健学(内科、内分泌専門医、甲状腺専門医)
グローバルCOEプログラム「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」リーダー

<学会活動>

日本甲状腺学会理事長、日本内分泌学会監事、アジア大洋州甲状腺学会理事



さかもと てるお
坂本 照夫

1950年(昭和25年)11月26日生(大分県)

久留米大学病院 副院長・
久留米大学医学部救急医学講座 主任教授・
久留米大学病院高度救命救急センター センター長

東日本大震災に対する救急・災害医療活動 ~DMAT、ドクターヘリ、JMAT活動報告~

平成23年3月11日14時46分に東北・関東地方において発生した未曾有の東日本大震災に対して、翌日未明に久留米大学病院からも厚生労働省と福岡県の要請を受けて災害派遣医療チーム(DMAT: Disaster Medical Assistance Team)2隊およびドクターヘリが出動しました。今回の災害は平成9年の阪神・淡路大震災の直下型とは異なって、津波という想定外の災害が発生したことによるもので、これまでの地震災害とは被災状況が異なっていました。DMATとは医師2名、看護師2名、業務調整員1名で構成され、発災からおおむね48時間の超急性期に活動する専門的な訓練を受けた医療チームのことで、この医療チームが大規模災害時に全国から派遣され、広域医療搬送・病院支援・現場活動などを主な活動としています。さらにDMAT隊員を搭乗させてドクターヘリによる救急医療の支援も行っていました。そして、震災後およそ2ヶ月の5月には、福岡県医師会の要請によるJMAT(日本医師会災害医療チーム)としても4チーム(25名)を被災地に派遣して、慢性期の疾病に対する医療と心のケアを行ってきました。このような活動が行えたのも久留米大学での後方支援および福岡県民の総力によるものと誇りに思っています。このような国内の大災害に対する大掛かりな災害医療支援は初めてのことでしたので、ここに報告をさせていただきます。

<学 歴>

1977年(昭和52年) 3月 久留米大学医学部卒業

<職 歴>

1977年(昭和52年) 4月 久留米大学医学部外科第二講座入局
1983年(昭和58年) 4月 労働福祉事業団 筑豊労災病院外科
1985年(昭和60年) 4月 労働福祉事業団 筑豊労災病院外科副部長
10月 久留米大学病院高度救命救急センター(助手)
1989年(平成 元年) 4月 久留米大学病院高度救命救急センター(講師)
1995年(平成 7 年) 9月 久留米大学医学部救急医学講座(助教授)
1997年(平成 9 年) 8月 カナダ・マギル(McGill)大学外科留学
1998年(平成10年) 3月 帰学
2002年(平成14年)11月 久留米大学医学部救急医学講座(教授)
2004年(平成16年) 4月 (兼ねて 高度救命救急センター・センター長)
2005年(平成17年) 4月 (兼ねて 久留米大学病院臨床工学センター長)
2009年(平成21年) 4月 久留米大学病院副院長

現在に至る

<資 格>

1977年(昭和52年) 6月 医師免許取得
1986年(昭和61年) 5月 医学博士学位取得
1989年(平成 元年) 1月 日本救急医学会認定医
(2004.1.1 救急科専門医へ移行)
1990年(平成 2 年) 6月 日本消化器外科学会認定医
1990年(平成 2 年)12月 日本外科学会認定医
(2003.12.1 外科専門医へ移行)
1995年(平成 7 年) 4月 日本集中治療医学会専門医
1997年(平成 9 年) 1月 日本救急医学会指導医
2002年(平成14年) 1月 ICD(インフェクションコントロールドクター)制度協議会認定医
2003年(平成15年)12月 日本外科学会指導医
2010年(平成22年) 7月 日本外傷学会専門医

<所属学会、社会的活動・役職>

日本救急医学会・理事、日本航空医療学会・理事、日本急性血液浄化学会・理事
日本外傷学会・理事、日本外科学会・評議員、日本臨床救急医学会・評議員
日本集中治療医学会・評議員、日本腹部救急医学会・評議員、日本臨床外科医学会・評議員
日本救命医療学会・評議員、Society of Critical Care Medicine
福岡県ドクターヘリ統括責任者、福岡救急医学会・副会長
NPO法人筑後地域救急医療研究会・副理事長
社会福祉法人恩賜財団済生会支部大分県済生会日田病院・理事
福岡県筑後地域メディカルコントロール協議会・副会長